

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473000865	事業の開始年月日	平成16年10月1日
		指定年月日	平成16年10月1日
法人名	社会福祉法人徳寿会		
事業所名	グループホーム晃風園		
所在地	(242-0012) 神奈川県大和市深見東3-2-5		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和8年1月21日	評価結果 市町村受理日	令和8年5月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「よりその人らしい生活を送る」を事業目標に掲げており、ご利用者様一人ひとりに寄り添い安心・安全でホッとアットホームな生活環境を提供すると共にご利用者様らしい生活環境、サービスを提供することを使命に取り組んで行く。「やさしい笑顔、気持ち良い挨拶、ていねいな言葉遣い」の法人理念を胸に、職員一人一人の力を発揮し、ご利用者様、晃風園に関わって下さった方々の為に出来ることをさせて頂く。また、認知症対応型施設として、認知症のスキルを高め、プロ意識を持ち、認知症の方の立場に立ったケアを心掛ける。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年2月24日	評価機関 評価決定日	令和8年4月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小田急線・相鉄線「大和」駅からバス6分、下車徒歩3分の住宅街にあります。全室南向きで日当たりが良く、建物の中心に居間と食堂を配置しています。裏手には梅林があり、同一法人のデイサービスが隣接しています。

<優れている点>

理念である「やさしい笑顔」を大切に、職員が楽しい気持ちで利用者に接することを目指しています。管理者は、職員が楽しんで働くことが良いケアにつながると考え、個々の自主性や特技を支援に活かせる職場づくりに注力しています。具体的には、絵が得意な職員が利用者と共に作る貼り絵の下書きを描き、裁縫が得意な職員がランチョンマットを作成するなど、強みを活かした関わりが、利用者の喜びと職員のやりがいを生み出しています。また、地域との関係を重視し、実習生の受け入れに加え、屋外掲示板で事業所の案内やボランティア募集を行うなどの情報発信、さらには自治会との交流を継続しています。こうした日々の積み重ねが、利用者一人ひとりの自分らしい生活の実現につながっています。

<工夫点>

利用者一人ひとりの習慣や希望に寄り添った暮らしを追求しています。下着を自身で洗いたいという人には、周囲に気兼ねなく取り組めるよう入浴順を最後に調整するなど、個別のこだわりを尊重した柔軟な対応を実践しています。こうした配慮により、利用者は自身の生活リズムや役割を維持することができ、集団生活の中でも個人の尊厳が守られた納得感のある日々を過ごしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム晃風園
ユニット名	1階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホッと心地よい、また行こうと言ってくれる地域のふるさとを目指して、職員は理念の唱和を行い、理解共有に努めている。	管理者は職員が楽しい気持ちで笑顔で利用者に接することを大切に考え、理念である「やさしい笑顔」の実践に注力しています。入浴の誘い一つをとっても、体調はどうですかと聞くなどの対話を大切にするワンクッションをおき、笑顔で話しかけることで安心感につなげる支援をしています。こうした理念に基づく日常的な関わりが、利用者にとって穏やかな環境の創出に寄与しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度は8月に盆踊り大会へ参加し、地域の方と一緒にあって、炭坑節などを踊った。また、幼稚園の行事に合わせて、段ボールを寄贈したり、地域の方にボトルキャップ回収の協力をして頂いたりし、交流を図っている。	自治会の盆踊り大会に参加するほか、事業所の庭の草刈りについて地域から支援の申し出を受けるなど良好な関係を築いています。ボランティアによるハーモニカやギターの演奏会を受け入れ、利用者とともに楽しむ機会を創出しています。また、近隣幼稚園の運動会観覧や、園児の発表会練習を兼ねた演奏会の受け入れ、ガレージセール開催による住民との交流も検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して、地域の参加者の方へ認知症ケアの実践を活動として報告・発信することを行っている。今後は玄関前の掲示板を活用し、地域の人々へ向けて発信していけるよう取り組みたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2か月毎に定期開催し、報告だけでなく、参加者から出た意見を吸い上げるようにしている。草むしりを定期的に行った方がよいと意見を頂いたので、来年度は5月と10月に自治会の皆様に依頼していくよう検討している。	事業所は地域に支えられており地域に貢献したいという思いを大切にしており、運営推進会議を地域との大切な交流の場としています。自治会の参加者からは、自治会をさらに活用してもよいという意見を受けており、事業所からもガレージセールの開催による住民交流を提案する予定です。こうした会議でのやり取りを活かし、地域社会と双方向に支え合う関係づくりに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に、大和市の担当者が4か月ごとに出席して下さっており、グループホームの活動の報告と、大和市の地域活動の取組み報告を適宜行っている。	市の人生100年推進課や地域包括支援センターの職員が交互に運営推進会議に参加し、情報を共有しています。行政主催の介護講座に参加し、職員の研鑽に努めています。成年後見人の申立手続きをしている人が入居した際は、市のケースワーカーに進捗状況を問い合わせるなど、円滑な手続きに向けた連携を実践しています。入院した利用者が事業所に戻ることが難しいと判断された場合は、病院や市のケースワーカーと相談し、継続的な支援の在り方を検討しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を法人施設系で合同で行っている。指針の見直しや委員会の内容の共有を職員へ行い、年2回の研修を実施している。また、職員の理解を検証するためにスピーチロックについてのアンケートを行っている。	言葉による拘束であるスピーチロックへのリスクを職員が常に認識し、「ダメ」と言うのではなくワンクッション置いて「どうしましたか？」と言い換えて話しかけるよう指導しています。スピーチロックに関するアンケートを自身の言動を振り返る機会とし、身体拘束の内部研修で行う他者評価と合わせ、拘束しない支援を職員自身が考えるよう働きかけています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止検討委員会を法人施設系で合同で行い、委員を中心に職員へ虐待防止の取組みを伝えたり、研修で学ぶように取り組んでいる。虐待の芽防止チェックリストを職員アンケートとして行っている。	心にゆとりをもつことが虐待の防止につながるという考えのもと、日頃から相談しやすい雰囲気づくりを重視しています。利用者への敬意を込めた対応を心がけており、例えば車いすで移動する際も「通りたのいいですか」と質問型で話しかけるよう指導しています。こうした日常的な助言を通じ、職員一人ひとりがゆとりを持って利用者に向き合える環境を整え、虐待防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について学ぶ機会が少ないですが、介護保険制度について、新入職員に晃風園スクールという研修の中で学べる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を締結する際や、改定が行われる際には利用者、家族に口頭や書面にて都度説明を行っている。不明な点や疑問等は尋ねて頂けるように一言添えて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様に毎月のお手紙などでご不明点等があれば問い合わせ下さいと記している。ご家族様からの運営に関してのご意見は前回の外部評価で受けた内容を運営に反映できるように職員に周知努めている。	日頃から利用者の生活の様子を家族へ細やかに伝えるよう努めています。例えば、家事に馴染みのなかった利用者が食器拭きに取り組む姿を手紙で知らせ、家族の喜びの声を共有しています。また、持参したハーモニカを居室で楽しむ様子を報告し、家族に安心してもらうとともに、そこから得られる反応を大切にしています。こうした日常的なやり取りを通じて家族との信頼関係を築き、意向や意見を運営に反映しやすい環境を整えています。	手紙による丁寧な情報共有を継続しつつ、今後は家族からの感想や意見をより広く汲み取れるような工夫を加え、運営への反映に向けたさらなる連携の充実が期待されます。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関して、職員から意見や提案を聞けるように管理者が職員に案を聞いたり、会議で質問したりして反映させるよう努めている。	管理者に相談しやすい雰囲気をつくり、日常の会話や申し送りを通じて職員の気づきや意見を吸い上げる体制を整えています。具体例として、職員から提案のあった「就寝時のパッド容量の変更」に対し、家族の了解を得て対応を改善した事例があります。また、年2回の個人面談で資格取得の希望や勤務に関する要望を直接聞き取るなど、職員の声を柔軟に反映させることで、組織全体の運営の質を高めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者と面談できる機会を年2回設け、個々の業務評価を行い、向上心に繋がられるように職場の環境整備を心掛けている。今年度は直接雇用の退職者は1名のみで推移している。	管理者はワークライフバランスが大切と考えており、勤務体制に関する職員の要望へ柔軟に対応しています。また、絵が得意な職員に貼り絵の下書きを依頼し、裁縫が得意な職員にランチョンマット製作を任せるなど、個々の特技を支援に活かしています。こうした適材適所の役割分担を通じて、利用者の笑顔を職員のやりがいへとつなげ、個々の能力を発揮しやすい職場環境を築いています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者が職員の力量を把握に努め、受講してほしい研修を受けて頂く機会を確保したり、動画視聴研修を進めアンケート記入し提出して頂いたりしている。	管理者は職員に役割を持ってもらい、課題を解決し経験を積むことが育成につながると考えています。本人の適性を見て研修の受講を促すとともに、資格取得に必要な費用や時間は法人が支援する体制を敷いています。研修受講時には他の職員が業務をカバーし、互いにフォローし合う体制を構築しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	全ての職員とまではいかないが、職員には外部研修などに参加し、同業者と交流できるような機会を管理者から作れるように図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所後、不安な点や困っていることに耳を傾けて、ニーズを聞き出し、施設サービス計画書に反映できるような時間を確保し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様にサービスを利用する段階で困っていることやご要望などを聞き取りし、施設サービス計画書の内容に反映できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用開始時、グループホームに入所したいと至った経緯を伺うと共に、本人と家族が必要としている支援を行えるようにヒヤリングしてチームで共有していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護が必要な場面では介護を行い、一緒に作業ができるような場面では一緒に作業を共にし、暮らしを共にするような関係性を目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が望むことをヒヤリングし、本人と家族との関係性が途切れないように、支援できることを提供していくように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅でお使いになっていたものを持参して頂いたり、面会の申し出があればご友人の方を招いて面会して頂いたりし、これまで培ってきた関係性が継続できるように支援を努めている。	友人と居室で歓談する時間を支えるほか、山菜採りが好きだった利用者が庭で園芸を楽しめるよう配慮するなど、これまでの生活習慣の継続を支援しています。ひ孫への年賀状返信を代筆して想いを形にする手伝いや、思い出の歌謡曲を流して共に口ずさむ場をつくるなど、個々の嗜好や要望を大切にしています。こうした関わりを通じ、本人が望む暮らしを維持できるように、生活の質に配慮した支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	話が合いそうな利用者同士を同じテーブルで一緒に過ごして頂いたり、職員が間に入り会話をしたりしている。トラブルになってしまった利用者には職員が間に入り、環境を整えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所となった利用者で同法人の事業所を利用している方を中心に職員が顔を見に行ったり、必要に応じて相談事などがあれば連絡調整をしたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや暮らし方の希望・意向を入所時にヒヤリングしたり、生活の関わりの中で見つけたりしようとしている。意向確認が困難な場合は、本人本位の目線で職員同士で話し合いに努めている。	入居時の本人および家族への聞き取りに加え、入居後の日常的な関わりを通じて思いや意向の把握に取り組んでいます。意思疎通が難しい方に対しては、短い問いかけを用いて意思を確認する工夫をしています。また、行事の際の反応や表情、しぐさも大切な判断材料とし、これらを総合的に捉えることで本人本位の支援につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 生活歴を聞き取り、馴染みの生活環境に近づけるようサービス利用中に生活環境を整えられるように努めている。	生活歴を聞き取り、馴染みの生活環境に近づけるようサービス利用中に生活環境を整えられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りノートやケアカルテの記録を入力して、一人ひとりの現状の把握と共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネージャーを中心に電話で意見を吸い上げて介護計画作成を行っているが、対面で意見を吸い上げる時間を設けることがなかなかできていない。	職員や関係者の意見を取りまとめ、計画作成担当者が中心となり介護計画を作成・更新しています。日々のケアや支援の記録は介護ソフトに入力し、重要事項は申し送り時に職員間で共有しています。管理者は、介護計画に係る家族との合意形成プロセスの見直しを検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアカルテへの日々の様子やケアの実践を個別記録して必要事項は申し送りとして共有できるようにしている。介護計画の見直しに至ることは少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の様子や家族の状況を踏まえ、その時その時のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し、利用者の生活に寄り添えるようハーモニカ演奏ボランティアの受け入れなどを行い、安全で豊かな暮らしになるように支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	中央林間病院が主な往診医となるが、ご家族の希望に合わせて、これまでのかかりつけ医でも受診が出来るよう選定してもらっている。	入居時に協力医療機関との医療連携体制を説明し、合意のもとでかかりつけ医を選定しています。入居前からの医療機関を継続したいという要望がある場合は、受診や送迎を家族が担うなど、協力を得て健康管理を支えています。協力医療機関の定期訪問診療時には、医師の指示や助言内容を共有し、診断結果を日常のケアに反映しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員から看護師へ日々の状態の気付きを伝え、往診に繋げたり、在宅医療に連絡したりして適切な受診に繋げられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は地域医療連携室の担当の方と情報共有するように努め、早期に退院が出来るのか、継続したサービス提供が困難なのか、相談できるような関係づくりに努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合に備えた文章の説明を行って、事業所で出来ることと、法人としてできること、をなるべく丁寧に説明するように心がけている。	入居時に重度化した場合の対応指針を説明し、合意のうえで受け入れを行っています。事業所として看取り支援は実施していませんが、対応指針に基づき、状態が変化した際には法人内の特別養護老人ホームへの転居意向を確認するなどの体制を整えています。終末期が近づいた際には改めて意向の再確認を行い、本人や家族の希望に沿った選択ができるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練が行えていないが、急変時や事故発生時の緊急時対応マニュアルを見えるところに掲示している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に災害時の避難訓練を実施している。全職員の参加がなかなか行えていないので、今後の目標としたい。地域との協力体制を築くために、運営推進会議の場で地域ではどのように動いているのかを確認する。	年に2回の防災訓練を実施し、その都度、振り返りを行っています。BCP（業務継続計画）を策定し、机上演習を通じて手順の確認に努めています。非常事態発生時の地域との協力体制についても運営推進会議で相談し、助言を得るなど外部との連携を大切にしています。なお、管理者は賞味期限を踏まえた非常食の定期的な更新を課題と認識しており、適切な備蓄を通じた安心感のある環境づくりを心がけています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スピーチロックという言葉の拘束についての研修を行うと共に、チェックリストを更衣室に掲示し、自己を振り返られる仕組みを作っている。	職員には、接遇の基本を踏まえ、利用者の誇りや尊厳を損なわないケアの実践を求めています。接遇の基本が遵守されていない事象を管理者が発見した場合には、一拍置いて指導や注意を行うようにしています。また、報告を受けた場合には、複数の職員に事実確認を行い、適切に対処するよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	買い物に行きたい、という思いがある方には可能な限り行けるように職員が対応したり、希望を表した方には訴えに応じた対応を心掛けるようにし、自己決定できるように動いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな一日の流れは決まっていますが、一人ひとりの生活の希望を伺い、寄り添えるよう支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪の毛を伸ばしたい方は伸ばして頂いたり、毎月散髪したい方はして頂いたりし、その人が望む身だしなみに近づける支援を心掛けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立を食事の前にお伝えし楽しみな時間になるように心がけたり、利用者と職員と一緒に準備や片づけをしたりして支援を行っている。	朝食は届いた食材を使いホーム内で調理し、昼食は弁当、夕食は完調品を活用して提供しています。行事食やイベント食については、配食業者と連携して独自の献立を検討し提供しています。利用者のリクエストを踏まえ、テイクアウトによる食事を取り入れることもあり、食を通じた生活の彩りを大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量や形態が異なる為、わかりやすく明記している。なかなか習慣に応じた支援は行えていないが、魚が嫌いという方には提供しない等の工夫はしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアが行えるようにお声掛けと必要に応じて介助を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握するために排泄表を記入しているが、排泄の失敗から学び時間を変更して誘導したり、その方の習慣を活かした排泄が行えるように見守りしたりが行えていない。	排泄チェック表の記録をもとに、利用者の生活リズムや排泄パターンの把握を行っています。現在は、蓄積した情報をさらに個別の支援へ活かすことを目標とし、職員間で好事例を共有するなど具体的な工夫を検討しているところです。個々の状況に合わせた丁寧なケアの実践を通じ、より心地よく過ごせる環境の実現を目指しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物や運動を工夫した便秘改善に向けての予防は取り組むことが行えていない。下剤の調整は医師や看護師と連携して行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ある程度は入浴日や時間が決まっていますが、一人ひとり入りたいタイミングや関わり方が異なる為、利用者に合わせて対応を心掛けている。	一番風呂やゆっくりとした入浴の希望、また入浴時に下着の洗濯を望む声など、利用者一人ひとりの習慣やこだわりに応じた柔軟な入浴支援を行っています。個別の要望に寄り添うことで、気兼ねなく入浴を楽しめる時間を提供しています。あわせて、安全対策として手すりの交換を実施し、安心して利用できる設備の維持に配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠気が見られたら横になって休んで頂いたり、ソファ椅子で休息して頂いたりし、安心して時間を過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用、用法や用量について、職員皆が理解しているわけではないが、生命にかかわるものであることを念頭に支援を行っている。服薬で出てしまう症状や変化については皆で話し合う事があるので、勉強会を設けていくことを検討する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	職員の手伝いや仕事をしてもらったり、将棋やマージャン、カラオケ等の楽しみごとが継続して行えるように支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩したい、買い物に行きたいという訴えがあった際には可能な限り出かけられるように支援している。普段行けない場所に行きたいという要望はあまりないが、今後ヒヤリングしていくことを考えていく。	利用者の意向に沿った近隣への散歩や買い物などの外出支援を行っています。現在は、より多くの要望に柔軟に応えられる体制づくりを重視しており、事業所の庭やウッドデッキを活用した外気浴の実施や、地域と連携した機会の確保を検討しています。外の空気に触れてリフレッシュできる時間を増やし、生活の質のさらなる向上につなげています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者本人がお金を持つことはなく、職員預かりも極力対応していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をしたいという訴えがあった際には対応している。年賀状が届いた際に利用者から返事を出したいと申し出があれば返事を出せるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間が利用者様にとって安心安全であるよう環境整備したり、季節感を演出したりして、なるべく居心地の良い空間となるように支援している。	居間と食堂は建物の中心に位置し、南向きの明るい光が差し込む設計となっています。居心地が良く安全な環境づくりの基本は5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）にあるとの認識のもと、日常的な清掃や環境整備を継続しています。共用空間には職員と利用者が共同で作成した貼り絵を飾るなど、温かみのある雰囲気づくりを大切にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士で談笑したり、塗り絵をしたりして一緒に過ごすことを楽しむ方もいれば、お一人で過ごすことが好きな方もいるので、職員は思い思いに生活できるように配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはなるべく使い慣れたものを持ち込んでもらったり、ゆっくり過ごせるように好みの物を持参してもらったりして、少しでも居心地の良い空間に近づけるように配慮している。	入居時の環境変化による不安を和らげるため、家族にはこれまで使い慣れた家具や愛着のある物品の持ち込みを勧めています。居室の構成においては、本人の意向を尊重しながら、安全に移動できるよう家具の配置を工夫しています。また、事故を未然に防ぐための対策として、状況に応じて立ち上がり検知センサーを導入するなど、安心と自分らしさを両立できる生活空間の提供に力を注いでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者それぞれが安全に生活できるように、動線を考えたり自立した生活が行えるように工夫をしている。		

事業所名	グループホーム晃風園
ユニット名	2階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホッと心地よい、また行こうと言ってくれる地域のふるさとも目指して、職員は理念の唱和を行い、理解共有に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度は8月に盆踊り大会へ参加し、地域の方と一緒に、炭坑節などを踊った。また、幼稚園の行事に合わせて、段ボールを寄贈したり、地域の方にボトルキャップ回収の協力をして頂いたりし、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して、地域の参加者の方へ認知症ケアの実践を活動として報告・発信することを行っている。今後は玄関前の掲示板を活用し、地域の人々へ向けて発信していけるよう取り組みたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2か月毎に定期開催し、報告だけでなく、参加者から出た意見を吸い上げるようにしている。草むしりを定期的に行った方がよいと意見を頂いたので、来年度は5月と10月に自治会の皆様に依頼していくよう検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に、大和市の担当者が4か月ごとに出席して下さっており、グループホームの活動の報告と、大和市の地域活動の取り組み報告を適宜行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を法人施設系で合同で行ってる。指針の見直しや委員会の内容の共有を職員へ行い、年2回の研修を実施してる。また、職員の理解を検証するためにスピーチロックについてのアンケートを行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止検討委員会を法人施設系で合同で行い、委員を中心に職員へ虐待防止の取り組みを伝えたり、研修で学ぶように取り組んでいる。虐待の芽防止チェックリストを職員アンケートとして行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について学ぶ機会が少ないですが、介護保険制度について、新入職員に晃風園スクールという研修の中で学べる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を締結する際や、改定が行われる際には利用者、家族に口頭や書面にて都度説明を行っている。不明な点や疑問等は尋ねて頂けるように一言添えて対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様に毎月のお手紙などでご不明点等があれば問い合わせ下さいと記している。ご家族様からの運営に関してのご意見は前回の外部評価で受けた内容を運営に反映できるように職員に周知し努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関して、職員から意見や提案を聞けるように管理者が職員に案を聞いたり、会議で質問したりして反映させるよう努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者と面談できる機会を年2回設け、個々の業務評価を行い、向上心に繋がられるように職場の環境整備を心掛けている。今年度は直接雇用の退職者は1名のみで推移している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者が職員の力量を把握に努め、受講してほしい研修を受けて頂く機会を確保したり、動画視聴研修を進めアンケート記入し提出して頂いたりをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	全ての職員とまではいかないが、職員には外部研修などに参加し、同業者と交流できるような機会を管理者から作れるように図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所後、不安な点や困っていることに耳を傾けて、ニーズを聞き出し、施設サービス計画書に反映できるような時間を確保し関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様にサービスを利用する段階で困っていることやご要望などを聞き取りし、施設サービス計画書の内容に反映できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用開始時、グループホームに入所したいと至った経緯を伺うと共に、本人と家族が必要としている支援を行えるようにヒヤリングしてチームで共有していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護が必要な場面では介護を行い、一緒に作業ができるような場面では一緒に作業を共にし、暮らしを共にするよう関係性を目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が望むことをヒヤリングし、本人と家族との関係性が途切れないように、支援できることを提供していくように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅でお使いになっていたものを持参して頂いたり、面会の申し出があればご友人の方を招いて面会して頂いたりし、これまで培ってきた関係性が継続できるように支援を努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	話が合いそうな利用者同士を同じテーブルで一緒に過ごして頂いたり、職員が間に入り会話を行ったりしている。トラブルになってしまった利用者には職員が間に入り、環境を整えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所となった利用者で同法人の事業所を利用している方を中心に職員が顔を見に行ったり、必要に応じて相談事などがあれば連絡調整をしたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや暮らし方の希望・意向を入所時にヒヤリングしたり、生活の関わりの中で見つけたりしようとしている。意向確認が困難な場合は、本人本位の目線で職員同士で話し合いに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 生活歴を聞き取り、馴染みの生活環境に近づけるようサービス利用中に生活環境を整えられるように努めている。	生活歴を聞き取り、馴染みの生活環境に近づけるようサービス利用中に生活環境を整えられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りノートやケアカルテの記録を入力して、一人ひとりの現状の把握と共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネージャーを中心に電話で意見を吸い上げて介護計画作成を行っているが、対面で意見を吸い上げる時間を設けることがなかなかできていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアカルテへの日々の様子やケアの実践を個別記録して必要事項は申し送りとして共有できるようにしている。介護計画の見直しに至ることは少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の様子や家族の状況を踏まえ、その時その時のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し、利用者の生活に寄り添えるようハーモニカ演奏ボランティアの受け入れなどを行い、安全で豊かな暮らしになるように支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	中央林間病院が主な往診医となるが、ご家族の希望に合わせて、これまでのかかりつけ医でも受診が出来るよう選定してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員から看護師へ日々の状態の気付きを伝え、往診に繋がったり、在宅医療に連絡したりして適切な受診に繋がられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は地域医療連携室の担当の方と情報共有するように努め、早期に退院が出来るのか、継続したサービス提供が困難なのか、相談できるような関係づくりに努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合に備えた文章の説明を行って、事業所で出来ることと、法人としてできること、をなるべく丁寧に説明するように心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練が行えていないが、急変時や事故発生時の緊急時対応マニュアルを見えるところに掲示している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に災害時の避難訓練を実施している。全職員の参加がなかなか行えていないので、今後の目標としたい。地域との協力体制を築くために、運営推進会議の場で地域ではどのように動いているのかを確認する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スピーチロックという言葉の拘束についての研修を行うと共に、チェックリストを更衣室に掲示し、自己を振り返られる仕組みを作っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	買い物に行きたい、という思いがある方には可能な限り行けるように職員が対応したり、希望を表した方には訴えに応じた対応を心掛けるようにし、自己決定できるように動いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな一日の流れは決まっていますが、一人ひとりの生活の希望を伺い、寄り添えるよう支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪の毛を伸ばしたい方は伸ばして頂いたり、毎月散髪したい方はして頂いたりし、その人が望む身だしなみに近づける支援を心掛けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立を食事の前にお伝えし楽しみな時間になるように心がけたり、利用者と職員と一緒に準備や片づけをしたりして支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量や形態が異なる為、わかりやすく明記している。なかなか習慣に応じた支援は行えていないが、魚が嫌いという方には提供しない等の工夫はしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアが行えるようにお声掛けと必要に応じて介助を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握するために排泄表を記入しているが、排泄の失敗から学び時間を変更して誘導したり、その方の習慣を活かした排泄が行えるように見守りしたりが行えていない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物や運動を工夫した便秘改善に向けての予防は取り組むことが行えていない。下剤の調整は医師や看護師と連携して行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ある程度は入浴日や時間が決まっていますが、一人ひとり入りたいタイミングや関わり方が異なる為、利用者に合わせた対応を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠気が見られたら横になって休んで頂いたり、ソファ椅子で休息して頂いたりし、安心して時間を過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用、用法や用量について、職員皆が理解しているわけではないが、生命にかかわるものであることを念頭に支援を行っている。服薬で出てしまう症状や変化については皆で話し合う事があるので、勉強会を設けていくことを検討する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	職員の手伝いや仕事をしてもらったり、将棋やマーじゃん、カラオケ等の楽しみごとが継続して行えるように支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩したい、買い物に行きたいという訴えがあった際には可能な限り出かけられるように支援している。普段行けない場所に行きたいという要望はあまりないが、今後ヒヤリングしていくことを考えていく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者本人がお金を持つことはなく、職員預かりも極力対応していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をしたいという訴えがあった際には対応している。年賀状が届いた際に利用者から返事を出したいと申し出があれば返事を出せるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間が利用者様にとって安心安全であるよう環境整備したり、季節感を演出したりして、なるべく居心地の良い空間となるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士で談笑したり、塗り絵をしたりして一緒に過ごすことを楽しむ方もいれば、お一人で過ごすことが好きな方もいるので、職員は思い思いに生活できるように配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはなるべく使い慣れたものを持ち込んでもらったり、ゆっくり過ごせるように好みの物を持参してもらったりして、少しでも居心地の良い空間に近づけるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者それぞれが安全に生活できるように、動線を考えたり自立した生活が行えるように工夫をしている。		

2025年度

事業所名 グループホーム晃風園
作成日： 令和8年 5月 14日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	手紙による丁寧な情報共有を継続しつつ、今後は家族からの感想や意見をより広く汲み取れるような工夫を加え、運営への反映に向けたさらなる連携の充実が期待されます。	グループホームの運営への反映として、日常の様子を手紙にてお伝えするだけでなく、現状写真が貼り付けられていないため、写真を張り付けられる手紙のフォーマットを作成していく。	①現状のご家族様への手紙のフォーマットの変更を話し合う。 ②フォーマットの作成案を作成する。 ③写真を貼り付けた手紙を作成してみる。 ④ご家族様へ送付する。	3ヶ月